

平成 29 年 2 月の解説（週間天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となりました。北・東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では曇りや雪または雨の日が多くなりました。太平洋側では曇りや雨または雪の日もありましたが、晴れる日が多くなりました。9 日は、本州の南岸沿いを東進する低気圧の影響で、太平洋側でも雪になるところがありました。10 日は、冬型の気圧配置が強まり、西日本を中心に強い寒気が南下しました。そのため、西日本日本海側では大雪となり、西日本太平洋側や九州でも積雪となったところがありました。

中旬は、旬の前半は強い冬型の気圧配置となり、日本海側では西日本を中心に大雪となりました。鳥取では 11 日に積雪が 91cm となり、33 年ぶりに 90cm を超えました。大雪により車の立ち往生や列車の運休など交通障害があったほか、雪の重みによる漁船の転覆が相次ぎました。また、西日本太平洋側や九州でも積雪となったところがありました。旬の後半は、数日の周期で低気圧が日本付近を通過しました。17 日は北海道の北を、20 日は北日本を、低気圧が発達しながら通過したため、各地で暴風となり、気温がかなり高くなる場所もあり、各地で春一番となりました。

下旬は、冬型の気圧配置が一時的で長続きせず、北日本は低気圧の影響を受けやすく、曇りや雪または雨の日が多くなりました。東・西日本は、低気圧の影響で天気の崩れた日もありましたが、冷涼な高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。23 日に低気圧が日本海を発達しながら通過し、全国的に雨または雪となりました。各地で強風となり、関東甲信地方を中心に気温がかなり高くなりました。沖縄・奄美では、前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北・東日本で高くなりました。月降水量は、西日本日本海側で多く、東日本太平洋側で少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側でかなり多くなり、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなった一方、北日本日本海側で少なくなりました。軽井沢（長野県）と熊谷（埼玉県）で月間日照時間の多い方からの 1 位の値を更新しました。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本で少なくなった一方、西日本日本海側で多くなりました。月最深積雪は、西日本で多いところが多くなりました。

【2 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値（注）より 7 ポイント高い 79%でした。各地方の適中率は、全ての地方で例年値より高くなり、特に北陸地方と中国地方で 11 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 2.1 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、特に北陸、中国、九州北部、沖縄の各地方で 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 1.7 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、特に関東甲信、近畿、中国、四国、九州南部の各地方で 0.5～0.8 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は暖かい日が多くなり、短い周期で低気圧が通って天気が変わることの多い時期でもあります。屋外で活動する機会も多くなりますが、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあります。また、高気圧に覆われてよく晴れた朝には、最低気温が低くなり霜のおりることもあります。寒暖の差が大きい時期ですので、週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理や農作物の管理等にお役立てください。